

101-181

問題文

(血圧)

左 上腕	138/72mmHg	足関節	152/78mmHg
右 上腕	134/70mmHg	足関節	94/52mmHg

1. ワルファリンカリウム
2. シロスタゾール
3. ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩
4. リバーロキサバン
5. サルボグレラート塩酸塩

解答

2, 5

解説

本問において、血圧が両手両足で測定されています。ここから ABI (ankle brachial index) を算出できます。ABI とは「足首の最高血圧 ÷ 上腕の最高血圧」です。健康であれば、足首の方が少し高くなります。ABI が、0.9 よりも小さいと動脈の閉塞が考えられます。本問症例では、右側の ABI が低いことが特徴的です。主訴の右ふくらはぎの痛み や MRI の結果と符号します。

さて、選択肢の薬はどれもいわゆる「血液サラサラにする薬」です。大きく 2 つに分類されます。すなわち抗凝固薬 (ワルファリン等) と、抗血小板薬 (サルボグレラート等) です。

抗凝固薬は、心不全などの基礎疾患のもと、血栓ができてやすくなっている時につかいます。一方、抗血小板薬は、動脈硬化が関与する血栓に対して用いられます。この使い分けは、血液をホースの中を流れる水、血管をホースと例えた時に、そもそも水が固まりやすくなっているなら抗凝固薬を用いる。ホースが細くなったり、硬くなっているなら抗血小板薬を用いる。というイメージです。(両方用いることもあります。)

本問では、選択肢 1,3,4 が、抗凝固薬です。選択肢 2,5 が、抗血小板薬です。従って、検査結果をふまえ、抗血小板薬を提案することが適切であると考えられます。

以上より、正解は 2,5 です。